

風況調査結果の公表について

令和元年6月14日
山形県環境エネルギー部

平成22年度の環境省の調査によると、山形県は都道府県別で比較した風力発電導入ポテンシャルが全国で7番目に大きな県とされております。

本県における再生可能エネルギーの普及には、風力発電が大きな役割を占めることから、風力発電導入の検討に必要な基礎データを整備し、県内への導入促進を図るため、県内内陸部において風況調査を実施しました。その結果は、以下のとおりです。

※発電導入ポテンシャル：利用に関する種々の制約要因による設置の可否を考慮したエネルギー資源量

○概要

調査期間：平成29年8月28日～平成30年8月27日

調査地：山形市関沢、南陽市小滝

○調査の結果（別紙を参照）

◇項目について

※NEDOの高所風況精査マニュアル等を参考にしています。

①風速出現率

1m/s毎に階級分けした風速の出現頻度です。

②風向出現率

方位毎（16方位）の風向の出現頻度です。

複数基導入の場合、主風向（最も頻度の多い風向）、風軸（主風向と隣にある2風向およびこれらの風向と対称となる風向）が明確な方が望ましいとされています。

③風向別風速出現率と平均風速

方位毎（16方位）の風向の出現頻度と平均風速で、風向と風速の関係を表します。

主風向における風速が大きな方が望ましいとされています。

事業検討の目安となる年平均風速は、地上高30mにおいて6m/s以上とされています。

④エネルギー密度

風向別のエネルギーの密度で風速から算出します。

事業の検討をする目安は地上高30mで240W/m²以上とされています。

⑤エネルギー取得率

エネルギー密度と風向出現率から算出します。

複数基導入の場合、主風向と風車配列の関係が重要とされています。

◆調査結果の詳細データ等については、エネルギー政策推進課（023-630-3053）へ問合せください。